

平成28年2月15日

各 位

(公財) 日本ハンドボール協会
普及指導本部長 三輪 一義
小学生専門委員長 竹内 貞明

2016年度Jクイックハンドボール(U-12ゲーム様式)に対応した 競技規則改訂について

日頃より、小学生ハンドボールの指導・普及にご尽力賜り厚く御礼申し上げます。

2015年度より実施しましたJクイックハンドボールでは、皆様のご理解とご協力により大きなトラブルもなく運用されていると感じております。改めて感謝申し上げます。

全国小学生大会におけるゲーム様相について、筑波大学ハンドボール研究室と共同してJクイックハンドボールの検証を3年間継続して行う計画です。加えて、競技規則についても、小学生専門委員会および競技規則研究専門委員会を中心に、現場の指導者の意見を反映させ、U-12ゲーム様式の趣旨がより生かされるべく、改善を図ってまいります。

2年目を迎えるJクイックハンドボールをより現場に適合したものにするために、2016競技規則改訂に合わせて、U-12ゲーム様式に関わる規則についても若干の改訂を実施することといたしました。

改訂は平成28年4月1日付けで施行されるものですが、混乱が生じないように年度末のこのタイミングで事前案内をさせていただいております。Jクイックハンドボールの趣旨を深くご理解いただき、今回の改訂についてご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

<Jクイックハンドボール競技規則改訂及びQ & Aについては別紙参照>

【改訂内容の要点】

- ・各セット（延長戦を含む）の開始時、スローオフはコート中央から行う。
- ・得点の後のGKスローは、ゴールエリア内であればどこから投げてよい。
- ・得点の後、レフリーの笛の合図のあとに、ゴールエリア内からGKスローを行って競技を再開する。

2016年度Jクイックハンドボール(U-12ゲーム様式)に対応した 競技規則改訂について



2016年1月31日

(公財) 日本ハンドボール協会審判委員会

平成27年度よりJクイックハンドボールが実施され、競技規則も「Jクイックハンドボール競技規則」として定められた。1年間の実施を受け、小学生委員会より競技規則の一部改訂が提案された。(公財)日本ハンドボール協会審判委員会では、提案の内容を受け、小学生委員会と協議の結果、下記の通り競技規則条文を定めた。

「競技規則書2016年版」(平成28年発行予定)における各条文の下に、小学生(U-12)用として<2016年度 Jクイックハンドボール>という見出しをつけて、競技規則条文を掲載する。条文は2015年度のものを使用している。

<2016年度 Jクイックハンドボール 競技規則改定の概要>

第1条 コート

1の7 ゴールキーパーライン(4mライン)は、ゴールの正面に引いた長さ15cmの直線である。ゴールラインから(ゴールラインの後端から4mラインの前端まで測って)4m離れたところに、ゴールラインと平行に引く(図1を参照)。

<2015年度 Jクイックハンドボール>

1の7 ゴールキーパーライン(4mライン)は、ゴールの正面に引いた長さ50cmの直線である。ゴールラインから(ゴールラインの後端から4mラインの前端まで測って)4m離れたところに、ゴールラインと平行に引く(図1を参照)

<2016年度 Jクイックハンドボール>

この条文をなくす。つまり、ゴールキーパーライン(4mライン)は15cmとなる。

第2条 競技時間 タイムアウト

2の1 成年・高校生のチームの競技時間はすべて、前後半各30分が標準である。休憩時間は10分が標準である。

中学生の標準の競技時間は前後半各25分である。休憩時間は10分が標準である。

小学生の標準の競技時間は「Jクイックハンドボール」のそれを標準とする。休憩時間は5分が標準である。「Jクイックハンドボール」を実施する際は、下記の通り行うものとする。

【注】 IHF大会、大陸連盟大会または国内大会において、主催者の権限でハーフタイムの時間を決定できる。しかし、ハーフタイムの最長時間は15分までとする。

<2015年度 Jクイックハンドボール>

2の1 Jクイックハンドボールを実施する場合は、競技時間を次のように定める。

- ・競技は3セット制で行い、競技時間はそれぞれ10分である。
- ・休憩時間は5分が標準である。
- ・延長戦については競技規則2:2に則り、前・後半で行う。
- ・各セットで、「セット回数表示板」をオフィシャル席中央に掲示する。「セット回数表示板」はA4規格のサイズで、1から3の数字を明確に記入する。

<2016年度 Jクイックハンドボール>

※2015年度と同様。

2の10 各チームは、正規の競技時間中の前半と後半に各1回ずつ、1分間のチームタイムアウトを取る権利がある。しかし、延長戦ではチームタイムアウトを取ることができない（競技規則解釈3）。

【注】 IHF大会、大陸連盟大会、または国内大会において、主催者の権限で1分間のチームタイムアウトの申告回数を決定できる。しかし、その回数は最高3回までであり、かつ前半、後半（延長戦は除いて）それぞれにおいて最高2回までとする（競技規則解釈3を参照）

<2015年度 Jクイックハンドボール>

2の10 各チームは、正規の競技時間中に1回のみ、1分間のチームタイムアウトを取る権利がある。しかし、延長戦ではチームタイムアウトを取ることができない（競技規則解釈3）。

<2016年度 Jクイックハンドボール>

※2015年版と同様

第9条 得点

9の2 レフェリーが次に行うスローオフの笛を吹いたならば、与えられた得点を取り消すことはできない（ただし、2:9【注】を参照）。

得点後のスローオフの実施までに、前後半の終了合図があった場合は、（スローオフを行わなくても）得点を与えたことを明示しなければならない。

<2016年度 Jクイックハンドボール>（新設）

9の2 得点のあと、レフェリーが次に行うゴールキーパースローの笛を吹いたならば、与えられた得点を取り消すことはできない（ただし、2:9【注】を参照）。

得点後のゴールキーパースローの実施までに、前後半の終了合図があった場合は、（ゴールキーパースローを行わなくても）得点を与えたことを明示しなければならない。

第 10 条 スローオフ

- 10 の 1 競技の開始にあたり、コイントスに勝ちボールを選択したチームがスローオフを行う。そして相手はサイドの選択権を得る。また、コイントスに勝ったチームがサイドの選択権を望んだ場合は、相手がスローオフを行うことになる。
- 競技の後半に両チームはサイドを交代する。競技の開始時にスローオフを行わなかったチームが、後半の開始のスローオフを行う。
- 各延長戦の前には改めてコイントスを行い、上記 10 : 1 の条項を延長戦にも適用する。

<2015年度 Jクイックハンドボール>

- 10 の 1 競技の開始にあたり、コイントスに勝ちボールを選択したチームがスローオフを行う。そして相手はサイドの選択権を得る。また、コイントスに勝ったチームがサイドの選択権を望んだ場合は、相手がスローオフを行うことになる。
- 各セットが終了するごとに、両チームはサイドを交代する。開始のスローオフも交互に行う。
- 各延長戦の前には改めてコイントスを行い、競技規則 2:2 の条項を延長戦に適用する。

<2016年度 Jクイックハンドボール>

※ 2015年度と同様

- 10 の 2 得点の後は、得点をされたチームのスローオフによって競技を再開する（ただし、9 : 2 の第 2 段落を参照）。

<2016年度 Jクイックハンドボール>（新設）

- 10 の 2 得点の後は、得点をされたチームのゴールキーパーが、レフェリーの笛の後にゴールキーパースローを行うことによって競技を再開する（ただし、9 : 2 の 2 段落を参照）。

- 10 の 3 （左右に約 1.5 m を許容範囲として）コート中央からどの方向へもスローオフを行ってもよい。笛の合図から 3 秒以内にスローオフを行わなければならない（13 : 1a, 15 : 7 の第 3 段落）。スローオフを行うプレイヤーは、少なくとも片足をセンターライン上に、そして他方の足をセンターライン上または自陣側（15 : 6）に置き、さらにボールを手から離すまでその位置にいないなければならない（13 : 1a, 15 : 7 の第 3 段落、競技規則解釈 5 を参照）。スローを行うプレイヤーの味方のプレイヤーは、笛の合図よりも前にセンターラインを踏み越えてはならない（15 : 6）。

<2015年度 Jクイックハンドボール>

10 の 3 スローオフは得点されたチームのゴールキーパーによって、ボールがゴールエリアラインを越えるようにスローされなければならない。笛の合図から 3 秒以内にスローオフを行わなければならない (13 : 1a, 15 : 7 の第 3 段落)。

スローオフを行うゴールキーパーは、少なくとも片足をゴールキーパーライン上に置き、さらにボールを手から離すまでその位置にいななければならない (13 : 1a, 15 : 7 の第 3 段落, 競技規則解釈 5 を参照)。

ゴールキーパーの投げたボールがゴールエリアラインを完全に通過したとき、スローオフを行ったと見なす (ゴールキーパーズスローと同じ)。

<2016年度 Jクイックハンドボール>

10 の 3 (延長戦も含めて) 各セットの開始のスローオフはコート中央から行う。

得点の後、得点されたチームのゴールキーパーは、ボールがゴールエリアラインを越えるようにゴールキーパーズスローを行わなければならない。 笛の合図から 3 秒以内にスローを行わなければならない (13 : 1a, 15 : 7 の第 3 段落)。ゴールキーパーズスローを行うゴールキーパーは、ゴールエリア内のどこからでもレフエリーの笛の後にスローを行うことができる。

ゴールキーパーの投げたボールがゴールエリアラインを完全に通過したとき、ゴールキーパーズスローを行ったと見なす。

10 の 4 (延長戦も含めて) 前後半の開始時のスローオフに際して、すべてのプレイヤーは自陣のサイドにいななければならない。

しかし、得点後のスローオフに際しては、スローオフを行うチームの相手プレイヤーはコートのどちらのサイドにいてもよい。

しかしどちらの場合も、スローオフを行うチームの相手プレイヤーは、スローオフを行うプレイヤーから 3 m 以上離れていななければならない (15 : 4, 15 : 9, 8 : 7c)。

<2015年度 Jクイックハンドボール>

10 の 4 (延長戦も含めて) 各セット開始時のスローオフに際して、すべてのコートプレイヤーは自陣を問わず、プレーイングエリアのどの位置にいてもよい。

これは、得点後のスローオフに際しても同様に扱う。

しかしどちらの場合も、スローオフを行うチームの相手プレイヤーは、ゴールキーパーラインから 3 m 以上離れていななければならない (15 : 4, 15 : 9, 8 : 7c)。

<2016年度 Jクイックハンドボール>

10 の 4 (延長戦も含めて) 各セット開始時のスローオフに際して、すべてのプレイヤーは自陣のサイドにいななければならない。この場合、スローオフを行うチームの相手プレイヤーは、スローを行うプレイヤーから 3 m 以上離れていななければならない。 (15 : 4, 15 : 9, 8 : 7c)

第 12 条 ゴールキーパーズスロー

12 の 2 ゴールキーパーは、レフェリーの笛の合図なしで（ただし、15：5b を参照）、ボールがゴールエリアラインを越えるようにゴールエリアからゴールキーパーズスローを行う。

ゴールキーパーの投げたボールがゴールエリアラインを完全に通過したとき、ゴールキーパーズスローを行ったと見なす。

相手チームのプレーヤーはゴールエリアラインのすぐ外にいてもよいが、ボールがゴールエリアラインを通過するまで、ボールに触れることはできない（15：4、15：9、競技規則解釈 8：7c）。

<2016年度 Jクイックハンドボール>（新設）

12 の 2 ゴールキーパーは、レフェリーの笛の合図なしで（ただし、15：5b を参照）、ボールがゴールエリアラインを越えるようにゴールエリアからゴールキーパーズスローを行う。ただし、得点された後のゴールキーパーズスローはレフェリーの笛の合図の後に行わなければならない。

ゴールキーパーの投げたボールがゴールエリアラインを完全に通過したとき、ゴールキーパーズスローを行ったと見なす。

相手チームのプレーヤーはゴールエリアラインのすぐ外にいてもよいが、ボールがゴールエリアラインを通過するまで、ボールに触れることはできない（15：4、15：9、競技規則解釈 8：7c）。

2016年度Jクイックハンドボール(U-12ゲーム様式)に対応した 競技規則改訂 Q&Aについて

Q1. 得点の後のGKスローと通常のスローは同じと考えて良いですか？

A1. はい、スローについては同じと考えてください。

ただし、得点の後のGKスローについては、レフリーの笛の合図のあと、3秒以内にスローを完了してください。

Q2. 得点の後、GKスローの際、笛を吹くタイミングを教えてください。

A2. GKがゴールエリア内でボールを手にした時点(スローができる態勢)でGKスローの際、笛を吹きます。

Q3. 得点の後、レフリーの笛の合図のあと、3秒以内にスローを完了出来ない場合はどうなりますか？

A3. 相手チームにフリースローが与えられます。

Q4. 得点の後に、GKが3秒以内にスローを完了しなかった場合、相手チームにフリースローが与えられますが、その際のポイントはどこになりますか？

A4. レフリーが笛を吹いたときに、GK がボールを保持していた位置と、ゴールからの延長線上にある最短の9M ラインからになります。

Q5. 得点の後、ボールがゴールの中にある場合、そのままの位置からGKがスローすることはできますか？

A5. ボールがゴールの中であったとしても、身体の一部がゴールエリアに入っていれば、スローは可能です。

Q6. 得点の後、GKスローの際、GKから3m離れる必要はありますか？

A6. GKスローに関する競技規則を適用します。ポイントが存在しないため防御側プレイヤーは正しい位置であればGKから3m離れる必要はありません。

< GKはゴールキーパーの略です >